

平成 30 年度（2018 年度）第 3 回庄内地域における新設中学校及び
義務教育学校・（仮称）北校の開校に向けた準備委員会 意見交換概要

開催日時	平成 30 年（2018 年）9 月 10 日（月）19：00～20：30		
開催場所	第十中学校 1 階多目的室	傍聴者数	6 人
出席者	委員	<p>【庄内小学校】林委員、北島委員、増森委員、富田委員、三間委員、村田委員</p> <p>【野田小学校】溪口委員、谷口委員、児島委員、民部委員、乗光委員 石原委員、藤野委員、佐藤委員</p> <p>【島田小学校】瀧田委員、小林委員、米田委員、森田委員</p> <p>【第六中学校】亀谷委員、川田委員、矢野委員、根本委員、桑村委員</p> <p>【第十中学校】中北委員、湯井委員、島委員、埴口委員、都間委員</p>	
	事務局 その他	<p>吉田事務局長、田中教育監、井角参事、藤原次長、眞田学校教育課長 野田主幹（計画担当）、濱副主幹、鶴主査、高橋事務職員 大住教育推進コーディネーター</p>	
次第	<p>1. 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）北校の校名の公募について ・（仮称）北校の標準服の検討について <p>2. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「義務教育学校・（仮称）北校&（仮称）南部コラボセンターの設計に向けたワークショップ」（第 1・2 回）について <p>3. その他</p>		
配布資料	<p>【資料 1】平成 34 年度（2022 年度）開校予定 施設一体型義務教育学校・（仮称）北校の校名募集要領</p> <p>【資料 2】施設一体型義務教育学校・（仮称）北校の標準服に係る検討について</p> <p>【資料 3】義務教育学校における制服・標準服の他市事例</p> <p>【資料 4】施設の配置検討資料</p> <p>【参考】設計ワークショップかわら版</p>		

1. 意見交換

○（仮称）北校の校名の公募について

事務局（資料1についての説明）

委員長

- ・この要領に則って10月に校名の公募を実施するという説明であった。何かご意見等があればいただきたい。

（意見なし）

○（仮称）北校の標準服の検討について

事務局（資料2・3についての説明）

委員長

- ・標準服を導入した場合としなかった場合のそれぞれのメリットやデメリット、標準服を導入するならば何年生からどのようなデザインのものかなどについて、まずはグループで自由に意見を出していただき、後ほど発表していただきたい。

（グループに分かれて意見交換）

委員長

- ・それではA班から順に、どのような意見があったか発表していただきたい。

A班

- ・1年生から6年生までは私服でよいのではないかという意見もあったが、制服だと地域の子どもの見分けがつくことや、新しい学校の新しい制服への期待もあるので、1年生から4年生までは私服で、5年生以上は制服がよいのではないかという意見になった。
- ・デザインは、子どもの意見をまず聞きたい。そして、活動しやすく、経済的なものがよい。地域の見分けがつくということでは、帽子があってもよいのではという意見もあった。昔は帽子があったし、暑さ対策にもなる。
- ・次のステージへの意識づけとして、5年生から制服とすると、9年生までの6年間で一度は買い替えがあるだろうから、できるだけ安く経済的なものがよい。
- ・男女ともズボンが選択できる方がよい。
- ・リボンやネクタイは、必要なときに貸し出すシステムでもよいのではないか。

B班

- ・制服はなくてもよいのではないかという意見もあったが、新しい学校としてあった方がよいのではないかという話になった。学年の区切りが4-3-2制であるならば、8・9年生の2年間だけの着用ではもったいないので、5年生からの着用がよいのではないか。しかし、何回も買い替えるのは

保護者の負担になるので、経済性への配慮が必要である。

- ・卒業後には、TPOに合わせて服装をきちんと着こなすということが必要となるので、中学校卒業までに制服を着用することでそういう経験ができればよい。
- ・転校生への対応もあるので、制服のリユースの仕組みを整える必要がある。
- ・デザインは専門家に任せればよいが、安くて、動きやすく、きれいで、痛みにくいものがよい。

C班

- ・第六・七・十中は現在、制服があるので、(仮称)北校でも制服を導入した方がよいという意見が多かった。導入するならば、成長が著しい時期は避け、5年生ぐらいからの着用がよいのではないかという意見があった。また、1年生から4年生についても、下は紺色・上は白色など、ゆるやかだが統一性を持たせたらどうかという意見も出た。
- ・就学前や低学年の子どもを持つ保護者にも意見を聞く必要があるのではないか。
- ・資料中のスケジュール等については、その通りに進めればよいのではないか。
- ・導入するメリットとしては、ファッションが華美にならないことや、冠婚葬祭の際にも着用できること、子どもたちの気持ちがシャキッとすること、新しい学校としての一体感が生まれることなどが挙げられた。デメリットとしては、1期生におさがりがないことが挙げられた。
- ・制服を導入するにあたっては、子どもたちの意見を聞いたうえでメーカーにサンプルを作ってもらなど、できあがったサンプルから選ばせるだけでなく、サンプル作りから子どもたちに関わらせたいという意見もあった。

D班

- ・われわれ世代が議論すると、制服は導入するという方向での議論になってしまう。経験からの思い込みや刷り込み、先入観がある。自分の経験から言うと、制服があることで、大人になった自覚ができたり、モチベーションのアップにつながったりしたし、私服ではファッションが華美になるだろうと感じた。しかし、豊中市内にも自由服の学校があり、実態は違うということが現場の先生方からの話で出た。制服には活動しやすいというメリットがあるかとか、意識共有としてのメリットがあるかなどの議論がこれから必要である。われわれが持っている制服のイメージとは大人による刷り込みであり、本当に子どもの個性を伸ばすことができるのか考えなければいけない。本来ならば、小中学校通して、活動しやすい服装が標準服なのではないだろうか。
- ・象徴としての制服という意見や、式服としても着用できるメリットがあるという意見もあった。
- ・LGBTの観点もひとつではないか。
- ・何年生から導入するかについては、1年生からという意見はなかった。4-3-2制において、5年生から着用するという意見もあれば、保護者負担を考えると、現行通り7年生からがよいのではないかという意見もあった。
- ・デザインについては、自由度の広さや夏の暑さに配慮したもの、女子のズボンはもちろん認め、活動しやすいこと。個人的な意見としては、ピンクでも赤色でもよい、色に対する刷り込みもともがあるので、子どもたちがどのように考えるかを大事にしたい。
- ・保護者が子どもにしてやりたいという思いもわかるが、入学式や卒業式で華美な子どもが増えてきたと感じる。この地域で自由にしすぎると突出しそうだが、それも心配のしすぎかもしれない

という話もあった。

E班

- ・制服はある方がよいという意見になった。着用する学年については、今の6年生が中学生にあこがれるように、卒業式がない中でメリハリをつけるには、5年生からの着用がよいのではないか。
- ・購入にあたっては、ネット購入ができれば便利である。学校に各サイズのサンプルがあれば、サイズ違いも起きにくい。
- ・デザインは、例えばユニクロなどに作ってもらえればインパクトがあるのではないか。色のバリエーションも多数用意し、どの色を着てもいいというようにすれば子どもたちにも選ぶ楽しさがある。
- ・制服を導入しないデメリットとして、ファッションが華美になることや生徒指導上の難しさ、私服の方が結果として制服よりも高価になるのではないかとということが挙げられた。
- ・制服のリユースの仕組みを整えることで、安価に丈夫なものが用意できればよい。

委員長

- ・他のグループの意見を受けて何かご意見や感想があればいただきたい。

(意見なし)

2. 報告

○「義務教育学校・(仮称)北校&(仮称)南部コラボセンターの設計に向けたワークショップ」(第1・2回)について

事務局(資料4についての説明)

委員長

- ・9月22日(土)に3回目のワークショップが開催されるので、予定の合う方はぜひご参加いただきたい。只今の説明について、何かご質問等があればいただきたい。

(意見なし)

3. その他

委員長

- ・終了予定時間が近づいてきたので、次回以降の予定や連絡など事務局から説明いただきたい。

事務局

- ・第4回開校準備委員会は、11月下旬を予定している。日程が決まり次第、ご連絡させていただく。

(以上)